

ICT機器導入施設 曙光園

【施設概要】

運営法人: 社会福祉法人 全国スモンの会

住所: 東京都小平市小川町1丁目590番地

対象: 身体障害者

定員: 施設入所支援 50名

生活介護 47名

機能訓練 6名

短期入所 1名



令和2年度障害者支援施設 ICT 機器導入支援モデル事業

1 導入機器

分類	製品名	台数	導入の理由
見守り支援機器	心拍離床センサー	24台	・夜間の定期巡回、バイタル測定回数を減らし、支援員の負担軽減を図る。 ・夜間に、利用者を起こしてしまわないよう、機器を導入することで定期巡回の回数を減らす。
	見守りカメラ	3台	
	トイレ長時間使用お知らせシステム	9台	・フロアの死角にトイレがあるため、トイレに利用者がこもってしまう事故を防止するため。
情報共有、業務支援のための通信機器等	服やっくん	1台	QRコードを読み取ることにより、端末上でどの利用者の薬であるかが一目で分かり、誤薬防止に資するため。
	スマートフォン	3台	・見守り支援システムを支援中に確認するため。 ・服薬データをQRコードで読み取り、誤薬を防止するため。
	YUIステーション	3台	施設内の様々な機器から送信される情報を集約、一元管理し、確認するため。
通信環境整備	有線LAN設備、無線LANアクセスポイント	有線45 無線11	各システムの情報を端末やYUIステーションに集約するにあたり、安定した通信環境が必要となるため。

2 実施体制

- ・ 生活支援・福祉用具・医療リハビリテーション・IT・経理運営と主任・主査以上で構成
- ・ リーダー：副施設長
- ・ サブリーダー：生活支援員
- ・ メンバー：サービス管理責任者、作業療法士、生活支援員

3 課題整理

- ・ 利用者の高齢化に伴う介護量の増加（トイレ誘導・おむつ交換・体位交換・起床/就寝介助等）
- ・ 上記に伴う利用者からの呼び出しコール量が増加
- ・ 失禁時の後始末や着替えを自身で試みることによる車いすからの滑落事故の増加。
- ・ 服薬の厳格管理に伴う、フロア内の人手不足

4 導入効果

- ・ 起き上がりや離床の記録、把握が可能となり、今まで見えなかった利用者の行動パターンが可視化し、適切な支援が可能となった。
- ・ 遠隔で利用者の臥床状況の確認が可能となり、危険な状態になる前に職員がかけつけることにより、事故防止（ベッドからの転落件数、長時間トイレへの着座、誤薬事故0件）につながっている。

5 課題と解決策

- ・ 各機器について、寝返りやちょっとした動作でアラームが鳴ることがあり、個別設定の変更等で対応。
- ・ アラームに対して複数の職員が駆けつける事例があり、モニターでの確認から各支援員が対応する体系的ルールを策定
- ・ 服やっくんの効率的運用にあたって、QRコードに対応した薬局への切替